

大野正夫：高知大学海洋生物教育研究センター Masao OHNO: Usa Marine
Biological Institute, Kochi University

1953年に高知大学文理学部付属の宇佐臨海実験所は、土佐湾中央部の浦の内湾の湾口部（井尻地区）に設置された。その後1968年に農学部付属の水産実験所が対岸（宇佐地区）に開設された。1978年4月からこの2つの実験所が合併し、学部付属の枠をはずして、日本ではじめて海洋生物関係の学内共同利用施設（教授2，甲殻類，海洋微生物，助教授2，魚類，藻類）になって現在にいたっている。将来井尻地区に新たに本館が建ち、宇佐地区は養殖関係の施設になる予定であり施設の利用は現在流動的であるが、藻類関係の実習・研究は井尻地区で行われている。

井尻地区の施設は本館（鉄筋2階 854.7 m²），副研究棟（ブロック平屋 134 m²），飼育室（鉄筋2階 169 m²）などがあり，船舶は19t（定員40名）の小型海洋観測船「豊旗丸」，6t（定員34名）の実習船「ネプチューン」のほか船外機付ボート3隻がある。観測・実習に必要な計器・ウインチなどはそなわっている。臨海実習などの備品は，30名の実習ができる双眼顕微鏡，実体顕微鏡などが整っており，潜水用の器具も一通りそなえられている。研究用備品としては，走査型電子顕微鏡，ガスクロ装置，ダブルビーム白記分光光度計，



(井尻実験所)

超遠心分離機，フリーザーなどがあり，一通りの分類，生理生化学的実験はできる。藻類関係の培養には，-2～5°C（1坪）と5～30°C（3坪）の恒温室があり，アクアトロンは3台ある。

実習は，高知大学の生物学科，栽培漁業学科，地質学科をひきうけているほか，中・四国の大学の実習にも利用されている。外来研究者には，2研究室がもうけられており，宿泊，食事も常時便宜がはかられている。

浦の内湾は，湾口から奥まで12 kmあり，ハマチ養殖，青海苔養殖が行われており付着動物は豊富であるが，海藻類は貧弱な植生である。外海域も最近磯焼けがひどく海藻は少ないが，冬から春にかけては，湾内にはアマノリ類，ヒトエグサ類，フクロフノリ，ツノマタ類，カヤモノリ，ハバノリ，ツルツル，マメタワラ，オゴノリ類などがみられ，外海域には，オキツノリ，ウミウチワ，アミジグサ類，トゲモク，フタエモクなどがみられる。しかし船で1時間程度の須崎湾，手結には，カジメ，ヒロメなどの大群落がある。室戸岬には日帰りで調査に行け，亜熱帯性の植生がみられる足摺半島地区にもセンターのワゴン車を利用すれば採集などは容易である。

当センター（井尻実験所）へは，高知空港から堺町（空港バス30分）または高知駅前県交通バス「宇佐」行きに乗り換えれば約1時間，宇佐町「横浪スカイライン入口」で下車。そこから699 mの対岸まで宇佐大橋がかかっており，徒歩10分で実験所へ達する。

利用者は，所定の用紙によって，〒781-04 土佐市宇佐町宇佐3159-5，高知大学海洋生物教育研究センター所長宛に申しこむ。藻類関係者は，大野宛（土佐市宇佐町井尻194，Tel. 08885-6-3311）に連絡があれば利用等について便宜をはかる。